

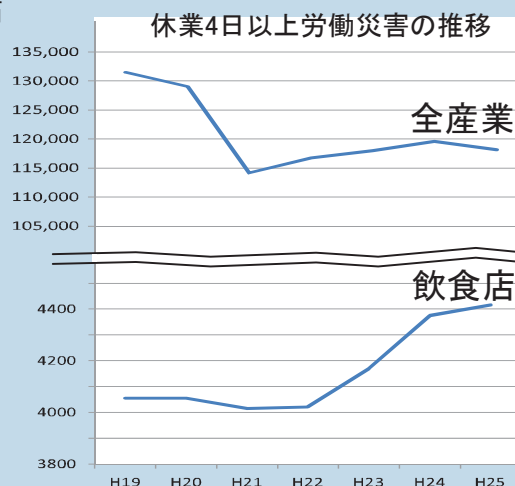
見える化で作業の安全を！

厚生労働省 都道府県労働局 労働基準監督署
(一社) 日本労働安全衛生コンサルタント会



飲食店における労働災害の現状

- 労働災害の4%が飲食店で発生しています。その占める割合は年々増加しています。
- 全産業の労働災害は減少傾向にありますが、飲食店の労働災害件数は増加傾向がみられます。
- 飲食店での労働災害（休業4日以上）の類型は多い順に次のとおりです。
 - ① 「転倒（つまずき、すべり）」 28%
 - ② 「切れ・こすれ」 26%
 - ③ 「高温・低温の物との接触」 15%
 - ④ 「動作の反動・無理な動作（腰痛など）」 6%
 - ⑤ 「墜落・転落」 6%



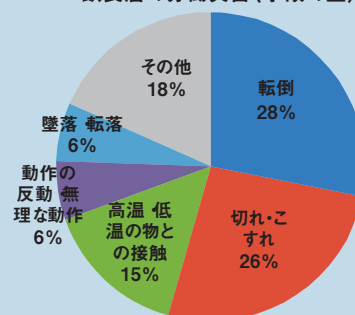
〔転倒災害〕 ホールでお盆に辛子入れを乗せて両手で運んでいて、通路のワゴンに足を引っかけて転倒した。

〔切れ・こすれ〕 厨房でまな板を拭いていたところ、まな板に放置していた包丁で手を切った。

〔高温・低温の者との接触〕 ホールのカウンターで味噌汁を鍋から保温器に移す際、照明をつけずに作業し、みそ汁を足にこぼした。

〔動作の反動・無理な動作〕 フライヤーの油交換作業で、油を入れた一斗缶(16Kg)を持ち上げ、腰を痛めた。

飲食店の労働災害(事故の型)



(平成25年労働者死傷病報告)

○ 「見える」安全活動のすすめ

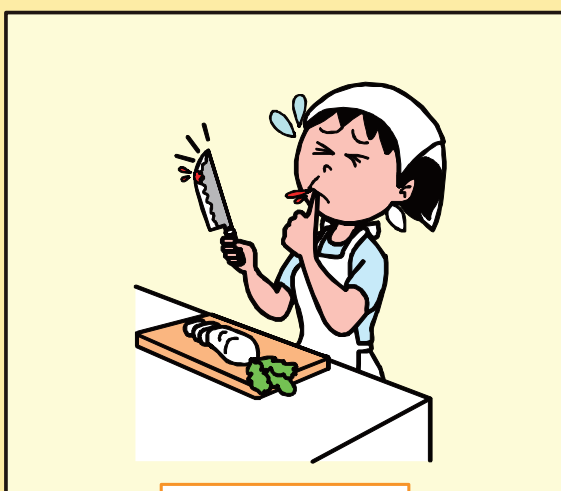
職場に潜む危険などは、視覚的に捉えられないものが数多くあります。それらを**可視化(見える化)**することで、より効果的な安全活動を行うことができます。これを「見える」安全活動と言います。

「見える化」は、危険認識や作業上の注意喚起を分かりやすく知らせることができ、また、一般の労働者も参加しやすいなど、安全確保のための有効なツールです。次頁以降に見える化の具体的な取り組み方法について、新たなツールも含め紹介しています。職場の危険を「見える化」し、安全確保に努めましょう。

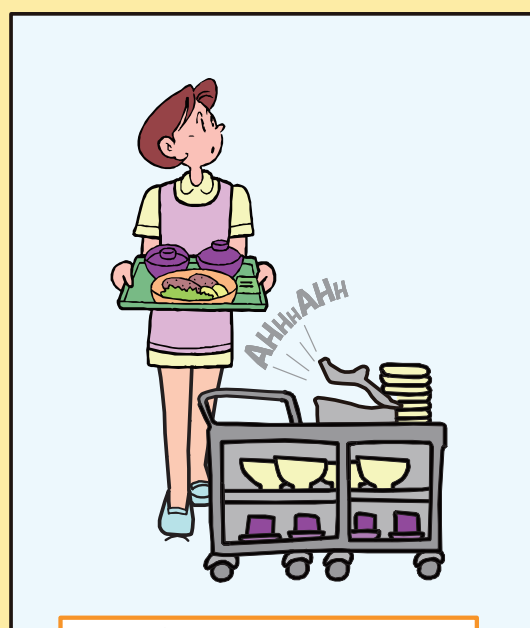
「見える」安全活動の事例

「見える化」は、危険認識や作業上の注意喚起を分かりやすく知らせることができ、また、一般の労働者も参加しやすいなど、安全確保のための有効なツールです。

以下は、飲食店にあるよくある災害の事例です。これらの事例を参考に、職場の見える化に挑戦してみましょう。



刃物に注意を！



つまづき・転倒に注意を！



やけどに注意を！



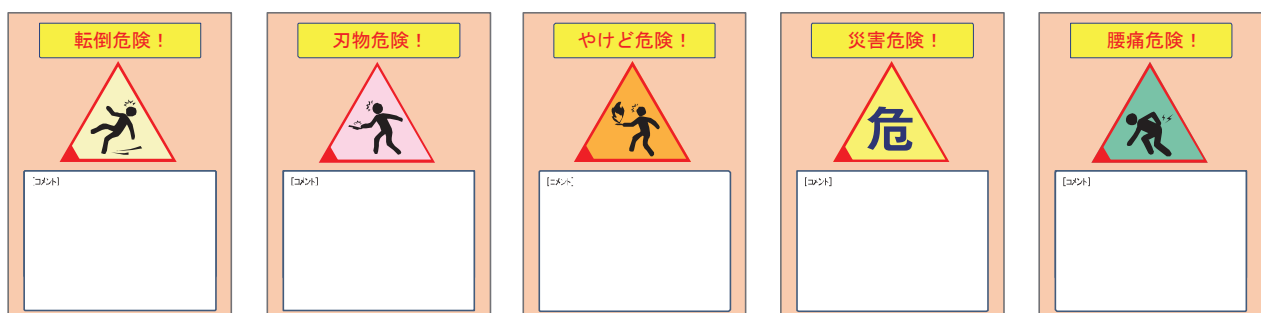
重量物に注意を！

「危険ステッカー」で危険の見える化を！

危険箇所等に貼り付ける、危険箇所と危険内容を警告する「危険ステッカー」は下の図のようなものです。使用方法は、次のとおりです。

- ① **危険箇所の確認と危険への対処の検討** 危険マップで危険とされた箇所や職場の安全についての話合いで危険とされた作業や箇所について、どのように危険に対処したらよいかを検討します。
- ② **危険ステッカーのコメント作成** 危険ステッカーのコメント欄に、危険の内容、危険への注意事項、安全のため守るべきことなどを記入します。
- ③ **危険ステッカーの掲示** 危険マップで危険箇所とされた実際の作業の現場に掲示します。作業場所に掲示できない場合は、コメント欄に場所と注意事項等を記入し、事務室や休憩室等従業員が集まる場所に掲示して注意を喚起する方法もあります。
- ④ **様々な利用方法**
 - ・ 危険ステッカーは、場所の危険の警告だけでなく、例えば今週の安全衛生注意事項等として、話合いで決めた注意事項や安全遵守事項などをコメント欄に記載して、事務室等に掲示して注意喚起する利用方法もあります。
 - ・ 危険ステッカーは、危険の種類ごとに作成してありますが、その他の危険については、「危」と書かれたステッカーを使います。
- ⑤ **危険ステッカー及びマーカーの入手方法** 危険ステッカー及びマーカーは印刷したものを配布していますが、さらに必要な場合は次のホームページから入手できます。

(一社) 日本労働安全衛生コンカウト会 <http://www.jashcon.or.jp/contents/>



ご安全に